

2-2-1項 FP (RPV破損が無い場合のRPV代替注水) (図-1参照)

操 作 順 序	操 作 内 容	確 認 事 項	操 作 場 所	確 認										
	MUW系によるRPV代替注水が不可能な場合、FP系からの代替注水を行う。 但し、原子炉圧力が0.69MPa以下であること。尚、注水流量については55m ³ /hr以上を常に確保するため必要に応じてSRVにて減圧操作を行う。													
1	M/D消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプを起動する。 ※M/D, ディーゼル駆動消火ポンプ共容量: 227m ³ /hr	Ⓡ点灯, Ⓞ消灯	9-70, 9-6											
2	RHR(B)系から注入ラインに注水が可能であることを確認する。 (1) RHR注入弁 (MO-10-25B, 27B) 「全開」 (2) 格納容器スプレイ弁 (MO-10-26B, 31B) 「全開」 (3) 原子炉ヘッドスプレイ弁 (MO-10-32, 33) 「全閉」 (4) 格納容器スプレイ弁 (MO-10-39B) 「全閉」 (5) ポンプ吐出連絡弁 (MO-10-20) 「全開」	Ⓡ点灯, Ⓞ消灯 Ⓞ点灯, Ⓡ消灯 " " "	9-3 " " "											
3	FP系からMUW系へ通水するため以下の弁を全開にする。 (1) FP-MUW連絡第一弁 (MO-79-1250) 「全開」 (2) FR-MUW連絡第二弁 (MO-79-1251) 「全開」	Ⓡ点灯, Ⓞ消灯 "	9-99 "											
4	RPV注入ライン流量調節弁(MO-10-111)を開にして注水流量がD/W代替注水流量計(FI-57-103)にて55m ³ /hr以上になるように調整する。	Ⓡ点灯 FI-57-103	9-99 "											
5	注水後は原子炉水位をL-3~L-8に維持する。													
6	並行操作で代替ドライウェルスプレイ又は代替サブプレッションチェンバースプレイを開始した場合は、それぞれの流量配分に注意する。													
7	ポンプ台数の関係で流量が不足し、それぞれの箇所への代替注水が並行操作で行えない場合は、以下の優先順位とする。 1. RPV 2. 格納容器 (1. S/C, 2. D/W)													
8	原子炉水位をL3~L8に維持できる場合、損傷炉心への注水を継続するとともに、注水流量を原子炉スクラム後の経過時間に応じた必要注水量に調整する。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>原子炉スクラム後の経過時間(hr)</th> <th>必要注水量 (m³/hr)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0~5</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>5~10</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>10~20</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>20hr以降</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>	原子炉スクラム後の経過時間(hr)	必要注水量 (m ³ /hr)	0~5	35	5~10	32	10~20	28	20hr以降	25			
原子炉スクラム後の経過時間(hr)	必要注水量 (m ³ /hr)													
0~5	35													
5~10	32													
10~20	28													
20hr以降	25													

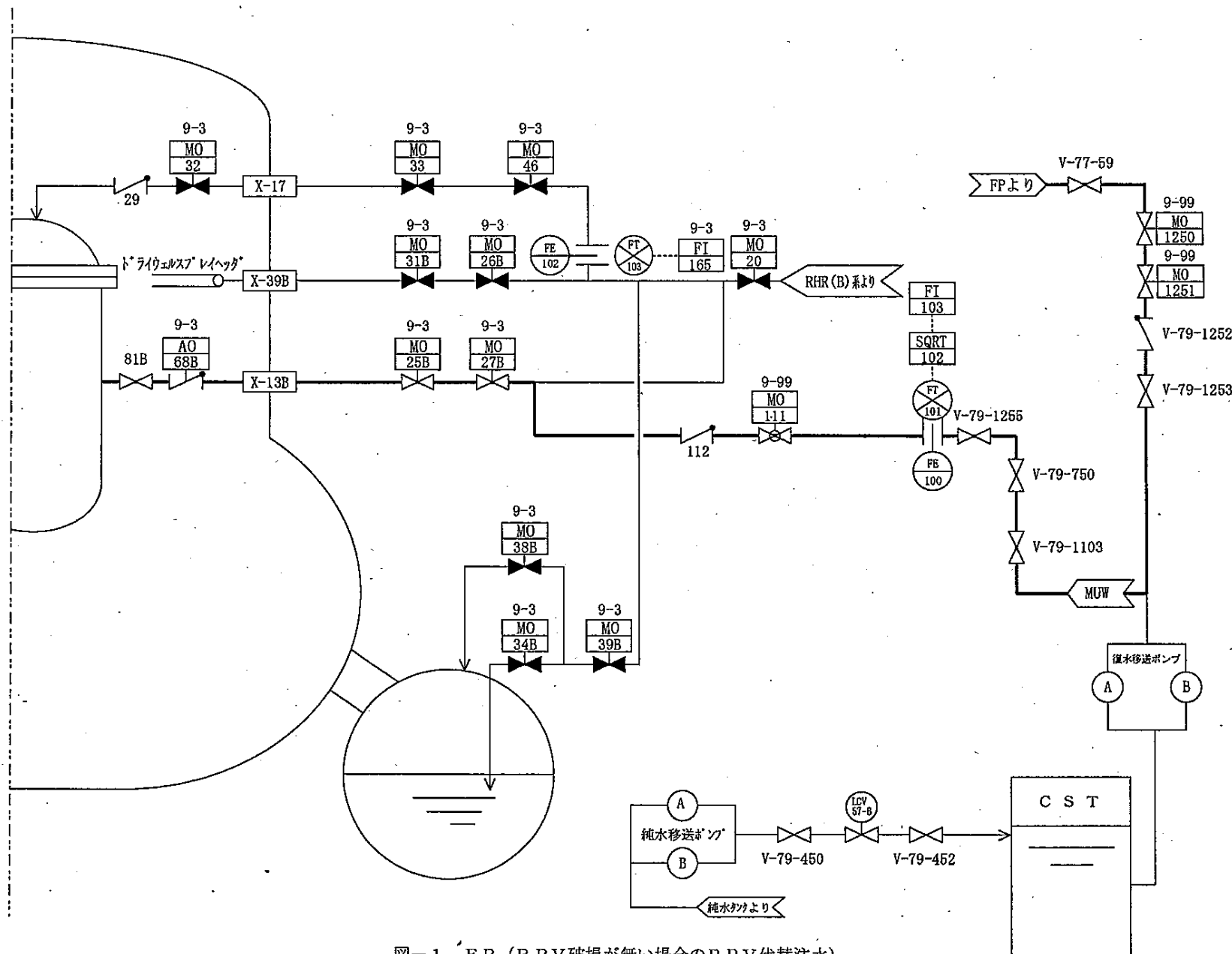


図-1 FP (RBPV破損が無い場合のRBPV代替注水)

一般 取扱注意 社内関係者限り 第一運転管理部

2-2-1-2